

うららかな春の陽光の注ぐ本日、こうして令和八年度島根県立大東高等学校入学式を盛大に挙行できますことを、大変うれしく思います。

入学式にあたり、雲南市教育委員会 教育長 小田川徹哉（おだがわ てつや）様、学校運営協議会 会長 土江博昭（つちえ ひろあき）様をはじめ多数のご来賓の方々にご参列いただきました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

先ほど入学を許可しました六十一名の新入生の皆さん、入学おめでとう。私たち大東高校は皆さんの入学を心待ちにしていました。心より歓迎します。

また、保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。本校の制服に身を包まれた本日の晴れ姿に、感慨も一人のことと思います。

さて、新入生の皆さん、今は高校生活への期待とやる気、そして不安が入り混じった気持ちでここにいるのではないのでしょうか。皆さんの本校での学びを始めるにあたって、心にとめておいてほしいこととお話しします。

まず、本校の教育目標についてです。本校では「誠実・勤勉・高邁」を校訓とし、「未来の創り手となるために必要な「人間力・学力・社会力」を身につけ、活力ある地域・社会づくりに貢献できる人材を育成する」ことを教育の目標としています。

「誠実」とは、何事にもきちんと向き合い、自身の持てる力を精一杯出して取り組むことです。皆さんの今持っている力はまだまだ微力です。これから3年間の高校生活で様々な課題と向き合い、解決に向けて努力することで自身のできることを増やし、力を高めていきましょう。

次に、「勤勉」です。人間の脳はちょうど皆さんの年齢の頃に成人の大きさになります。知識や経験を蓄積する広いスペースが出来上がったわけです。高校での学習は中学より詳しく、専門化しますが、皆さんの脳はスポンジのごとくそれらを吸収することができるのです。人は知識や経験の蓄積が豊かであればあるほど、多様な思考ができ、判断や行動が変わってきます。私たちは毎日膨大な情報の渦の中で生活しています。確かな知識や経験を積み重ねることで、誤った情報に惑わされることなく、正しい判断や行動ができるのです。

「高邁」とは、より良い自分を目指して、様々なことに挑戦をすることです。これまでの自分、過去の経験は変えることができません。変えることができるのは、これからの行動です。今の自分では不可能であることも、挑戦によって力をつけることで、未来の自分

であれば可能になることも多いのです。何かに挑戦しようとするとき、自信が持てずためらうこともあると思いますが、立ち止まっても変化は起こらないのです。思い切って一步を踏み出してください。

この校訓をもとにお話ししたことを意識し、高校生活を充実させ、未来の創り手として成長してくれることを願っています。

次に、生成A Iが急速に進歩し、大きな変革が起こる世の中で、人に求められるものについてお話しします。A I技術は週単位で更新され、コンピュータと対話ができ、画像やゲームを簡単に生成してくれます。悩み相談の相手としてカウンセリングまでできるようになりました。このようにA Iが人にとって代わる場面が増えていく世の中で、人には何が求められるのでしょうか。私が皆さんに意識してもらいたいことは、「わたしという主語」をしっかりと持つことです。例えば学習において、「勉強を教えてください」と言うときの主体は教える側の教師であり、「わたし」は受け身の側です。受け身の勉強であればA Iで十分です。なぜそうなるのか、「問い」を立てて自身で調べることによって主体は「わたし」になります。「わたしという主語」をきちんと立てると「わたし」はどう考えるのか、そう考える理由は何か、周りの人に理解してもらうには、「わたし」はどう説明や行動をすべきなのかと考えるようになります。A Iに尋ねたところで、出てくるのはインターネット上にある情報を組み合わせた答えです。それをそのまま「わたし」に当てはめてよいのでしょうか。主語である「わたし」の知識や経験、感情などを組み合わせて、最もよいと思える答えを「わたし」の中から生成する、これがA Iはできない、「わたし」にしかできないことです。

「わたし」の生成する答えの質を高めるために必要なことが、先に話した知識と経験の蓄積と挑戦です。いろいろな本を読んで納得したり、感動したり。学ぶことによって、世界で起こっている紛争や社会問題の背景にあるものが理解でき、怒りや悲しみを感じたり。友達と意見を交わして一緒に活動することで成功したり、時に失敗して挫折を感じたり。このようにたくさんの知識や経験、感情を「わたし」の中に蓄積することで未知の問題に対峙したときに、「わたし」にしか出せない答えを導き出すことができるようになるのです。これが、これからの社会で皆さんに求められる姿であると私は考えます。どうかこの大東高校で過ごす三年間で「わたしという主語」を立てて、様々なことに挑戦し、知恵と経験を蓄積して行ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、重ねて本日はおめでとうございます。高校時代は

将来の自立に向けて最後の準備期間であるといわれます。保護者の皆様には、お子様の「自立への支援者」の役割も意識していただきたいと思います。お子様の自立に向けて学校と家庭の連携を深めていけるよう、ご理解・ご協力をお願いし、式辞といたします。

令和八年四月九日

島根県立大東高等学校長 平 井 孝